

フォトフェスタ2008 第24回東川町国際写真フェスティバル

真夏のにぎわい、写真の祭典・どんとこい祭りに3万人

写真に集うフォトフェスタ2008、第24回東川町国際写真フェスティバルが7月29日から8月3日まで6日間、メインの催しを開催しました。前半4日間は第15回写真甲子園本戦大会、後半2日間は、東川賞授賞式・受賞作家作品展を中心に、8月2、3両日夏祭り「どんとこい祭り」も開幕。好天に恵まれて約3万人が繰り出し、真夏の祭り一色で町内が熱くにぎわいました。

写真甲子園本戦大会は、初出場8校を含む全国14校の高校生42人（1校3人で1チーム）が、町内と美瑛、上富良野3町内6つのステージで繰り広げられた熱戦を戦い、この夏の感動の瞬間を写真に切り取りました。

「優勝は初出場の新潟県立柏崎常盤高等学校」。8月1日、ファイナル



▲東川賞受賞作家作品展テーブルカット
(8月2日、文化ギャラリー)

公開審査会を経て、グランプリ受賞の名前が高々と読み上げられました。渡邊将好さん、田村悠里子さん、佐藤和さんの3人は「えっ、信じられない」といった様子で一瞬互いの顔を見合わせました。

立木義浩審査委員長から優勝旗が渡され、初出場でつかんだ快挙に「やったーっ!」。準優勝には、終始元気いっぱいに撮影フィールドを飛び回っていた大阪市立工芸高、特別賞には優秀賞に初入賞した帯広南商業高が入賞しました。

今年は過去最高の応募252校で、初出場校の多さでも目を引いた年でした。期間中、過去写真甲子園本戦大会



▲東川賞受賞者とギャラリートーク

に出場した経験を持つOB、OGが全国各地から24人集まって「写真甲子園同窓会」を開き、今後の活発な活動展開を誓い合いました。

◆ 中核行事の国際写真フェスティバル・第24回東川賞の授賞式受賞作家作品展などは、後半の8月2、3の両日。

海外作家賞のクラウス・ミッテルドルフ氏（ブラジル・サンパウロ市在住）、国内作家賞の橋本朝子氏（東京都在住）、新人作家賞の澤田知子氏（米国ニューヨーク市在住）、特別賞の小畑雄嗣氏（東京都在住）の4人が出席。農村環境改善センターで授賞式、受賞を祝う集いを開き、松岡市郎町長ら



▲どんとこい祭り



▲フォトフェスタ、協賛社の企画イベント

からお祝いを受けました。

同時開催の受賞作家作品展や受賞作家を招いて語り合う「ギャラリートーク」、新人写真家の「写真インデペンデンス展・合評の集い」、自分の写真作品を批評してもらえる「ニコニコナ21ポートフォリオレビュー」のほか、新たにエプソン販売(株)が「デジタル暗室システム」、(株)スタート・ラボが「デジタル写真保存セミナー」の各ブースを開設。盛りだくさんの写真の集いが一堂に開かれました。

文化ギャラリー前庭で開いた第3回ストリートギャラリーフォトコンテストは、年々出品者とバラエティーに富んだ作品展示が増え、今年は町内の写真家飯塚達央さん(42)がグランプリを受賞しました。